

平成28年度

教育委員会 点検と評価

加東市教育委員会

はじめに

平成28年3月に策定した「第2期加東市教育振興基本計画」（平成28年度から平成32年度）に沿って、「学びから新しい自分づくりと地域づくりをめざす加東市に！」の実現のため積極的に取り組んでおり、平成28年度の加東の教育のスローガンは、平成21年度から目指している「人間力の育成」とし、将来の教育のかたちを見据えた小中一貫教育の推進、学校教育の分野では、確かな学力の定着、豊かな人間性の育成、健康体力づくり、不登校・いじめ等に対応する校内体制の整備等安全・安心で信頼される学校づくり、また、生涯学習の分野では、青少年健全育成、成人学習の充実、芸術・文化活動の振興、文化財保護事業の推進や生涯スポーツの普及、人権教育の分野では、共に生きる社会の実現に向けた人権教育・啓発の推進や男女共同参画事業の推進、図書館では資料・情報提供の充実や魅力ある蔵書の整備・充実など、幼児から高齢者に至る様々な教育活動を展開してきました。

また、これまで、学校施設の耐震化100%、空調施設整備やICT機器の導入など学校教育環境の充実や、平成25年度から、学校トイレの洋式化などの環境整備に積極的に取り組んできました。

とりわけ、平成25年度からは新規・重点事業の内、特に重点的に取り組んでいく事業を、加東の教育「かとう夢プラン」と位置づけ、様々な事業を推進してきました。

これらの取組みの一つ一つが「人間力の育成」に繋がり、加東市が掲げる「文化よし」のまちづくりのため、重要なステップであると考えており、平成28年度も概ね成果を挙げることが出来たと感じております。

この報告書は、平成20年4月に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検と評価を行うことが義務付けられ、併せて、議会へ評価の結果を報告し、公表しなければならないとされたことに基づくものです。

そこで、加東市教育委員会において、外部の方々の意見を聞きながら、加東の教育の点検と評価を行い、諸事業の成果と課題を明確にし、次年度への発展につなげていきたいと考えています。

ご高覧いただき、今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願いいたします。

平成29年3月

加東市教育委員会

目 次

	ページ
1 教育委員会の活動及び運営状況	… 1
(1) 教育委員会委員	… 1
(2) 教育委員会の開催状況及び付議された議案等	… 1
(3) 教育委員会以外の主な活動状況	… 2
2 平成28年度 加東の教育目標	… 4
3 平成28年度主要事業の点検と評価	… 9
教育委員会の活性化	… 9
基本方針	
1. 小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実	
基本的方向	
(1) 社会的自立に向けたキャリア形成の支援	… 10
(2) グローバル化に対応した教育の推進	… 11
(3) 地域人材や地域資産等を活用した「ふるさと学習」の推進	… 12
(4) 小中一貫校開校に向けた適切な準備	… 13
2. 「生きる力」としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進	
(1) 確かな学力・主体的に学ぶ態度の育成	… 15
(2) 自尊感情や思いやりの心の醸成	… 17
(3) 心身の健康増進・個性の伸長	… 18
3. 子どもたちの学びや育ちを支える仕組みの確立	
(1) 学校の組織力及び教職員の資質能力の向上	… 21
(2) 安全・安心で信頼される学校づくり	… 22
(3) 子どもたちの健全な成長を見守り支える体制づくり	… 24
(4) 家庭の教育力の向上	… 25
4. 生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成	
(1) 生涯を通じた学びの機会・場の提供	… 27
(2) 文化財保護の推進と活用	… 29
(3) 生涯スポーツの普及と振興	… 30
(4) 社会教育・体育関係施設の管理・運営	… 31
(5) 市立図書館の充実	… 32
5. 人権教育・啓発の推進による、共生社会と人権文化の創造	
(1) 豊かな人権感覚を培う人権教育・啓発	… 34
(2) 男女共同参画社会の実現のための意識・機会・環境・地域づくり	… 36
4 評価委員所見	… 38

1 教育委員会の活動及び運営状況

(1) 教育委員会委員

区 分	氏 名	任 期
教 育 委 員 長	大 島 巧 男	平成26年5月27日～ 平成30年5月26日
委員長職務代行者	藤 本 洋 二	平成27年5月27日～ 平成31年5月26日
委 員	神 崎 芳 美	平成28年5月27日～ 平成32年5月26日
委 員	浅 川 る り	平成25年5月27日～ 平成29年5月26日
教 育 長	藤 本 謙 造	平成26年5月27日～ 平成30年5月26日

(2) 教育委員会の開催状況及び付議された議案等

開催日	番 号	案 件 名
4月28日	第1号議案	附属機関等委員の委嘱の件
	第2号議案	加東市東条地域小中一貫校開校準備委員会設置要綱制定の件
	第3号議案	加東市小中一貫教育研究会設置要綱及び加東市小中一貫教育推進協議会設置要綱を廃止する要綱制定の件
	報 告	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可15件
5月6日 (臨時)	第4号議案	加東市東条地域小中一貫校開校準備委員会設置要綱制定の件
5月27日 (臨時)	第1議事	加東市教育委員会会議録署名委員の指名について
	第2議事	加東市教育委員会委員長の選任について
	第3議事	加東市教育委員会委員長職務代行者の選任について
	第4議事	加東市教育委員会会議録署名委員の指定順序について
5月27日	第5号議案	附属機関等委員の委嘱の件
	協議事項	「日本の書道文化」をユネスコ無形文化遺産に登録するための賛同団体署名について
	報 告	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可5件
6月30日	第6号議案	附属機関等委員の委嘱の件
	第7号議案	加東市加古川流域滝野歴史民俗資料館の無料開放について
	協議事項	平成28年度「人権文化をすすめる県民運動」及び「ひょうご・ヒューマンフェスティバル」に係る共催について
	協議事項	小中一貫校の開校に向けた国等への要望について
	報 告	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可16件
7月28日	第8号議案	附属機関等委員の委嘱の件
	報 告	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可19件
8月25日	第9号議案	平成29年度学校教育法附則第9条に基づく一般図書採択について
	報 告	東条地域小中一貫校開校準備委員会の状況について
	報 告	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可8件
9月29日	第10号議案	加東市教育委員会会議規則の一部を改正する規則制定の件
	第11号議案	加東市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則制定の件
	第12号議案	加東市教育委員会事務局決裁規定の一部を改正する訓令制定の件

	第13号議案	附属機関等委員の委嘱の件
	報 告	東条地域小中一貫校開校準備委員会の状況について
	報 告	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可19件
10月28日	第14号議案	加東市加古川流域滝野歴史民俗資料館の観覧料の無料化について
	報 告	東条地域小中一貫校開校準備委員会の状況について
	報 告	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可7件
11月29日	第15号議案	図書館の臨時開館及び臨時休館の件
	第16号議案	加東市滝野複合施設の臨時開館の件
	報 告	東条地域小中一貫校開校準備委員会の状況について
	報 告	平成29年度新規予算要求重点事業
	報 告	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可7件
12月26日	報 告	東条地域小中一貫校開校準備委員会の状況について
	報 告	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可4件
1月31日	第17号議案	加東市東条地域小中一貫校建設の設計方針及び通学の基本方針等について
	報 告	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可3件
2月28日	第18号議案	加東市臨時又は非常勤の嘱託員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例を制定することについて
	第19号議案	加東市立幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例を制定することについて
	第20号議案	加東市社コミュニティセンター条例を廃止する条例を制定することについて
	報 告	東条中学校地すべり調査の概要について
	報 告	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可10件
	事前協議事項	平成28年度教育委員会の点検と評価について
3月29日	第21号議案	附属機関等委員の委嘱の件
	第22号議案	加東市社コミュニティセンター規則を廃止する規則制定の件について
	第23号議案	加東市立学校長等に対する事務委任規則の一部を改正する規則制定の件について
	第24号議案	加東市立学校施設使用条例施行規則の一部を改正する規則制定の件について
	第25号議案	加東市学校給食センター規則の一部を改正する規則制定の件について
	第26号議案	加東市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則制定の件について
	第27号議案	教育委員会事務局職員の任免の件について
	報 告	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可5件

(3) 教育委員会以外の主な活動状況

教育委員会委員は教育委員会への出席以外に次の行事等に出席しました。

- 市議会
 - ・本会議(教育長)
 - ・予算特別委員会、決算特別委員会、各常任委員会(教育長)
- 総合教育会議(7月22日、11月29日)
- 学校訪問(5月23日、5月30日、6月2日、6月7日、6月8日)

○ 各種学校行事

- ・小中学校入学式、幼稚園入園式(小中学校4月8日、幼稚園11日)
- ・小中学校PTA総会、幼稚園PTA総会
- ・学校園オープン:5月(4校園)、6月(13校園)、10月(11校園)、11月(7校園)、
12月(4校園)、1月(9校)
- ・小学校水泳交歓会(7月28日社小、滝野東小)
- ・幼稚園小学校運動会(9月17,18日、10月1日)、中学校体育祭(9月10日)
- ・小中学校音楽会・発表会
- ・学習発表会
- ・学校経営研究発表会(10月28日滝野南小、11月18日東条西小)
- ・ICT教育推進事業実践校発表会(11月11日米田小、11月15日鴨川小)
- ・小中学校卒業証書授与式、幼稚園卒園式(幼稚園3月17日、小学校3月23日、中学校3月10日)
- ・小中学校長会、幼稚園長会(教育長)

○ 各種会議及び研修会

- ・市町組合教育委員会教育長会議(4月18日教育長)
- ・兵庫県都市教育長協議会(5月10日、11月2日、2月3日教育長)
- ・兵庫県女性教育委員の会総会・研修会(6月29日女性教育委員)
- ・播磨東地区教育長会議(7月4日教育長)
- ・播磨東地区教育委員会連合会理事会・総会(7月12日教育長)
- ・播磨東地区教育長・教育委員連合会合同研修会(7月12日、11月28日)
- ・全県教育委員研修会(5月13日)
- ・全県教育長研修会(8月23日、24日)
- ・近畿市町村教育委員会研修大会(10月25日)

○ その他行事等

- ・加東市新成人の集い(1月8日)
- ・各種市内イベント・大会及び研修会等

2 平成28年度 加東の教育目標

スローガン「人間力の育成」

－ 学びから新しい自分づくりと地域づくりをめざす加東市に！ －

人間は、自らの学びや他者との学び合いによって、心身共に成長するものである。人間何歳になっても、「新しいことが分かった」「できた」など自分が変わることの喜びや生きがいを感じるものであり、それが、生涯をとおして学び続ける意欲を高める。

しかし、近年、少子高齢化・グローバル化・高度情報化の進展など、教育を取り巻く環境は、大きく変化している。さらに、生活習慣の多様化や核家族化から、特に子どもたちにとっては、学校外で群れ遊ぶ機会や幅広い年齢の人々と触れ合う機会が減少している。

このような状況の中、児童生徒に対し、確かな学力の定着はもちろんのこと、豊かな情操や規範意識、他者への思いやりなどの道徳性の育成、体力や運動能力の向上など、学校教育の担う役割はますます重要となっている。

そこで、本市教育の方針である「第2期加東市教育振興基本計画(平成28年3月)」に掲げる基本理念「【人間力の育成】-学びから新しい自分づくりと地域づくりをめざす加東市に！-」を平成28年度の本市教育のスローガンと定めた。

そして、第2期加東市教育振興基本計画の最終年度である平成32年度の計画達成にむけ、年次ごとの評価・点検を行なうための実施計画を作成し取り組むこととした。

学びをとおした市民の生きがいづくりを目指し、「人間力」の向上を図っていくことは、学びから新しい自分づくりと地域づくりを目指す加東市の実現に繋がっていくものと考ええる。

○教育委員会の活性化

教育委員会の運営

教育委員会が加東市教育の推進役を担うため、積極的に学校訪問、各種研修会等に参加し、見識を広め、学校、社会教育等に提言、助言を行う。

■ 主要施策

教育振興基本計画の基本理念を実現するため、5つの基本方針の基本的方向別に取り組む施策

基本方針1. 小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実

多様な教育課題や少子高齢化といった教育環境の変化に対応し、未来を担う子どもたちにより良い学びと成長を支援するすぐれた学習環境の提供のため、小中一貫教育を推進し、学校教育の一層の充実を図る。

- (1) 社会的自立に向けたキャリア形成の支援
児童生徒の発達段階に応じた体系的な体験活動を実施し、豊かな情操や社会性を育む。
- (2) グローバル化に対応した教育の推進
*小中学校での外国語活動をより充実させ、児童・生徒の英語力及び学習意欲の向上を図る。
*ICT 機器を効果的に活用した授業づくりを推進し、学習課題への興味付けや思考する場の提供等授業の質の向上を図る。
- (3) 地域人材や地域資産等を活用した「ふるさと学習」の推進
ふるさと学習「かとう学」の副読本とカリキュラムの作成を進める。
- (4) 小中一貫校開校に向けた適切な準備
*小中一貫教育の推進に向け、小小連携、小中連携による児童生徒の交流活動を一層充実させる。
*義務教育9年間を通して自立した子どもを育む小中一貫教育について、学校、保護者及び地域の意見を取り入れながら、その課題を整理し、東条・社・滝野地域の順に小中一貫校の整備を進める。

基本方針2. 「生きる力」としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進

子どもたちが、心身共に健康で、幅広い知識と教養や豊かな情操と道徳心を身につけるため、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の「生きる力」をバランスよく育む教育を推進する。

- (1) 確かな学力・主体的に学ぶ態度の育成
*全国学力・学習状況調査の結果を分析し、児童・生徒の学力の実態把握に基づくきめ細かな指導の充実に努める。
*自主学習室の設置や家庭学習の手引き等による学習方法のポイントの提示等により、児童・生徒が自主的に学ぶ態度を育成する。
*インクルーシブ教育システムを充実させ、一人一人の教育的ニーズを把握し、きめ細かい教育的な支援を行う。
*幼・保・小連携を推進し、幼児一人一人の特性に応じた教育・保育の充実を図る。
- (2) 自尊感情や思いやりの心の醸成
学校の教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図り、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。
- (3) 心身の健康増進・個性の伸長
*体力・運動能力調査の結果を分析し、系統的・計画的に児童生徒の体力・運動能力の向上を図る。
*地域や保護者と連携して食育を推進し、子どもたちの望ましい食習慣の形成を図る。

*学校給食を活用した食育指導を行い、地産地消の推進、楽しみのある学校給食特別メニューの実施等による魅力ある学校給食を行う。

*学校給食に対する理解を深めてもらうため、給食センター見学会、親子料理教室、給食試食会等を実施する。

基本方針3. 子どもたちの学びや育ちを支える仕組みの確立

子どもたちの成長に関わる当事者である学校・家庭・地域が、責任と役割を果たし、互いに連携・協力して子どもたちの教育に取り組む。

(1) 学校の組織力及び教職員の資質能力の向上

喫緊の教育課題について大学教授等専門的見識を持つ講師を招聘した研修を実施し、また、授業研究や事例検討会等校内研修を一層充実させることで、教職員の資質と実践的指導力の向上を図る。

(2) 安全・安心で信頼される学校づくり

*いじめや不登校等、こころに悩みを抱えた児童・生徒の早期発見に努め、悩みの解決に向けた支援体制を整える。

*いじめ防止基本方針に基づき教職員の協働体制を充実させ、いじめの根絶を目指す。

*地域、保護者や警察等関係機関と行動連携を図り、より一層、子どもたちの安全の確保に努める。

*安全・安心で質の高い教育環境の確保のため、計画的に学校施設等の維持管理を行う。

(3) 子どもたちの健全な成長を見守り支える体制づくり

学校教育活動について、学校オープンや各種通信、HP等を活用して積極的に保護者や地域住民への周知を図り、開かれた学校づくりを推進する。

(4) 家庭の教育力向上

地域・家庭・関係機関等とも連携して、子どもたちに製作活動や野外活動、そして地域や伝統文化などを学習・体験できる場と機会を提供するとともに、青少年の健全育成関係団体の育成・支援を行う。

基本方針4. 生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成

生涯学習や市民スポーツ等を通じて、学習や体験をする機会を提供し、多種の生きがいを育み、そして市民が有意義で活力に満ちた人生を送れるよう支援する。

(1) 生涯を通じた学びの機会・場の提供

*各年代に応じた多種にわたる学習の場と機会を創出・提供し、生きがいを育むとともに、成人の社会教育関係団体を育成・支援を行う。

*市民が文化・芸術に触れる機会を数多く設け、市の文化振興に努めるとともに、各種の文化・芸術団体を支援する。

(2) 文化財保護の推進と活用

市内の貴重な文化財の保護と伝承・活用に努め、地域と連携して後継者の育成を図る。

(3) 生涯スポーツの普及と振興

体力・年齢に応じたスポーツの場と機会を数多く提供し、スポーツ振興や健康増進に努め、地域コミュニティー、生きがいを育むとともに、市のスポーツ振興に寄与する団体の育成・支援を行う。

(4) 社会教育・体育関係施設の管理・運営

市民が便利で快適に利用できるよう、適切な管理・運営を行う。

(5) 市立図書館の充実

*活字文化を通して、こころ豊かで自発的なまちづくりに役立つよう、市民の読書環境を整える。

*図書館の使命である貸出を中心とした資料提供の充実を図り、市民の暮らしを高めるサービスを行う。

*次世代の子どもたちが本と触れ合える機会を提供する。

基本方針5. 人権教育・啓発の推進による、共生社会と人権文化の創造

「加東市人権尊重のまちづくり基本計画」に基づき、同和問題を重要な柱に据えて、さまざまな人権にかかわる課題の解決に向けて、計画的・総合的に取り組む。

(1) 豊かな人権感覚を培う人権教育・啓発

*加東市人権・同和教育研究協議会の活動を通して、地区毎にきめ細かい人権意識の高揚を図り、人権尊重のまちづくりを進める。

*各種人権講演会等を通して、様々な人権問題の早期解決や人権尊重のまちづくりを推進する。

*いじめや、インターネットを悪用した人権侵害が発生しており、小中学校と連携して人権教育講演会を開催し、人権尊重のための教育を推進する。

*子どもの人権作文、絵画等を活用して、市民への人権啓発を行う。

*福祉の向上と人権意識の高揚を図るため、広域隣保活動事業を行う。

*人権尊重の精神の芽生えが感性として育まれる幼児期に「絶対人権感覚」に関するプログラムを活用したセミナーを開催し、幼児期の人権教育事業を行う。

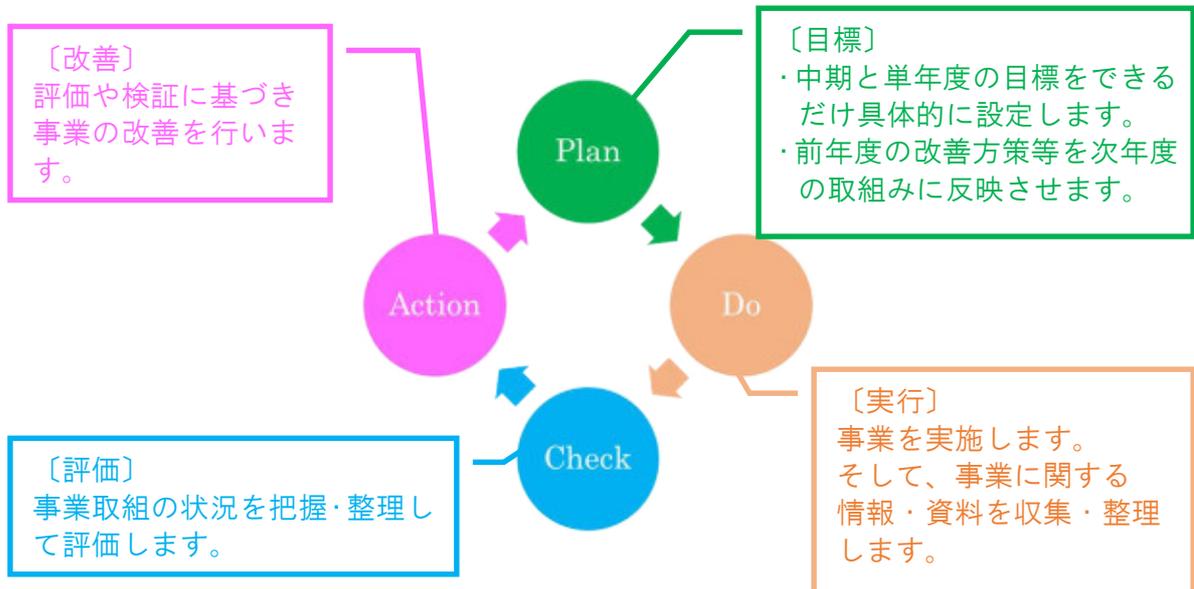
*インターネット上での人権トラブルに対する相談会を行う。

(2) 男女共同参画社会の実現のための意識・機会・環境・地域づくり

「男女共同参画プラン」を実践するため、セミナーや各種講演会等を通して、男女共同参画の意識の啓発を行う。

■ 評価基準

平成28年3月に策定した「第2期加東市教育振興基本計画」の実施計画を作成し、基本方針の基本的方向別に評価する。



点検と評価表は、目標設定 (P l a n)、取組内容 (D o)、成果と評価 (C h e c k)、今後の課題 (A c t i o n) で整理している。

なお、評価基準は、次のようにアルファベットをもって評価した。

- A・・・目標以上を達成している。
- B・・・目標に向けて順調に推移している。
- C・・・順調に推移していない。
- D・・・見直しが必要。

3 平成28年度主要事業の点検と評価

教育委員会の活性化

		所管課	教育総務課			
取組	教育委員会での施策提言、活発な意見交換、学校教育や社会教育の方針決定、各種行事・研修会への積極的な参加					
		H28	H29	H30	H31	H32
1	教育委員会の活性 教育委員会での議論や学校訪問や各種研修会への参加	議論 活動	➡			

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	A				

【点検と評価】

所管課	教育総務課					
目標設定 Plan	成果指標	H28	H29	H30	H31	H32
	活発な議論、研修会や研究発表会、学校訪問への参加	議論 活動	➡			
活発な議論、積極的な参加:評価「A」、参加や出席あり:評価「B」、参加や活動が減:評価「C」、参加や活動減が続く:評価「D」						
取組内容 Do	①教育委員会の活性化 *定例教育委員会(毎月)と臨時教育委員会を開催した。 1 *学校訪問や研究発表会、運動会への出席、各種式典、各種研修会へ参加した。 *加東市総合教育会議に出席し、市長と協議した。 関連事業 ① 小学校・中学校・幼稚園への学校訪問					
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果			
	①	小中一貫校開校に向けた取組を推進し、教育全般に関する活発な議論	*定例教育委員会で、小中一貫教育の推進への取り組み報告、学校教育や社会教育について活発な意見交換や、議案に対し慎重に審議を行った。 *学校訪問、各種行事・研修会への積極的な参加により学校教育・社会教育現場の現状把握を行い、定例教育委員会での意見交換や提言に繋げることができた。(学校訪問、各種研修会、学校経営研究発表会、入学(園)式、卒業(園)式、成人式、オープンスクール、音楽会、人権講演会、人権研修会、スポーツ大会、文化行事等) *加東市総合教育会議(7/22、11/29)において、加東市教育大綱の策定に関する協議を行った。			
評価		以上の活動を行ったので、評価は「A」とします。				
今後の課題 Action	取組	課題や改善点				
①		東条地域小中一貫校の平成33年開校に向けた取組みを推進し、教育全般に関する案件の活発な議論を行う。				

【点検と評価】

基本方針1	小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実
基本的方向(1)	社会的自立に向けたキャリア形成の支援

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	B				

所管課	学校教育課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	将来の夢や目標を実現するために努力している児童生徒の割合(小・中)	目標値	(%)	56.3	57				65
		実績値	(%)		57.2				
将来の夢や目標を実現するために努力している児童生徒の割合65%以上:評価「A」、56%以上:評価「B」、46%以上:評価「C」、46%未満:評価「D」									
取組内容 Do	①体験活動をとおして職業観、勤労観を培う進路指導の充実								
	1 職業観、勤労観を培うため、系統性を重視した進路学習を実施した。 2 主体的に進路選択し、決定できる能力や態度を育成するため、個に応じた進路指導を実施した。								
	②家庭や地域と連携した組織的・系統的なキャリア教育の推進								
1 キャリアプランニング能力を育成するため、「キャリアノート」を活用した取組を推進した。 2 他者と協力・協働して社会に参画する態度や、自ら考え主体的に行動し、問題を解決する能力を育成するため、トライやる・ウィーク等、多様な体験活動を取り入れたキャリア教育を推進した。									
関連事業 ①② 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」推進事業									
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	①②	学校、家庭、地域が連携した系統的なキャリア教育の推進	学校、家庭、地域の連携のもと、「トライやる・ウィーク」等の体験学習を実施することにより、地域の人々の暮らしを支える仕事や地域とのつながり、学ぶことや働くことの意義について考えさせることが出来た。						
評価		将来の夢や目標を実現するために努力している児童生徒の割合が57.2%であったため、評価を「B」とします。							
今後の課題 Action	取組	課題や改善点							
	①②	「キャリアノート」を活用した取組等、系統的なキャリア教育を一層推進する。 トライやる・ウィークの事業所を新しく開拓する。							

【点検と評価】

基本方針1	小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実
基本的方向(2)	グローバル化に対応した教育の推進

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	B				

所管課	学校教育課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	英検3級相当以上の英語力を有する中学校3年生の割合	目標値	中(%)	38.9	40				50
		実績値	中(%)		39.9				
英検3級相当以上の英語力を有する中学校3年生の割合が50%以上:評価「A」、39%以上:評価「B」、35%以上:評価「C」、35%未満:評価「D」									
取組内容 Do	①外国人留学生や姉妹都市の学校との交流等による国際理解教育の推進 1,2 外国人と意欲的にコミュニケーションをとろうとする態度や多文化理解の精神を育成するため、外国人留学生や姉妹都市の学校との交流を実施した。								
	②英語教育の充実 1,2 英語に慣れ親しませ、英語によるコミュニケーション能力を育成するため、ALTを活用した授業や小学校からの英語活動を実施した。 3,4 より実践的な英語力の向上を図るため、市独自の「かとう英語ライセンス制度」や「加東わくわく英語村」等を実施した。								
	③ICT機器を活用したプレゼンテーション活動の充実 1 発達段階に応じた情報活用能力をバランスよく育成するため、ICT機器を活用した授業を実施した。 2 正しく安全にインターネットを利用する態度や能力を育成するため、専門家を招聘し、情報モラル学習を実施した。 3,4 ICT機器を授業で効果的に活用できるよう、研究や研修の充実を図った。								
	関連事業	① 外国人留学生との交流 姉妹都市(オリンピア市)の学校との交流 ② かとう英語ライセンス制度 加東わくわく英語村 英検検定料助成事業 ③ ICT教育研究推進事業 情報モラル学習							
成果と評価 Check	取組	継続課題			成果				
	①	姉妹都市の学校との交流の実施			姉妹都市の学校へ向けたビデオレターを作成し、送付することが出来た。				
	②	ALTと日本人教員のチーム・ティーチングの充実			担当者会等において、研究授業を実施し、より効果的なチーム・ティーチングの方法について共有することが出来た。				
	③	タブレットPC等新たな機器の活用の研究			ICT教育研究推進校において、タブレットPCを活用した授業を公開したことで、教員は、タブレットPC等の機器の活用について理解を深めるとともに、その成果と課題を共有することが出来た。				
	評価	英検3級相当以上の英語力を有する中学校3年生の割合が39.9%だったため、評価を「B」とします。							
今後の課題 Action	取組	課題や改善点							
	①	外国人留学生や姉妹都市の学校と交流に引き続き取り組む。							
	②	小学校英語の教科化に向け、校内研修の充実を図る。							
	③	情報活用能力に関する指標を作成し、児童生徒に身に付けたい力を具体化する。							

【点検と評価】

基本方針1	小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実
基本的方向(3)	地域人材や地域資産等を活用した「ふるさと学習」の推進

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	B				

所管課	学校教育課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	ふるさと学習「かとう学」の副読本とカリキュラムの作成準備状況	目標値	%	なし	20				100
		実績値	%		20				
副読本作成の進捗進行率40%以上：評価「A」、20%以上：評価「B」、10%以上：評価「C」、10%未満：評価「D」									
取組内容 Do	①地域人材や地域資産を活用した、地域に学ぶ「ふるさと学習」の実施								
	1 「ふるさと学習」副読本の内容を検討した。 2 地域人材や地域資産等を活用した郷土の歴史や文化等にふれる副読本とカリキュラムを作成した。 3 ゲストティーチャーを積極的に活用した。								
関連事業 ① 小学校「加東遺産」めぐりの旅									
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	①	地域人材や地域資産を活用した、地域に学ぶ「ふるさと学習」の実施	*加東市教育研究所員会を開催し、副読本上巻・下巻の二部構成で掲載内容を検討した。 *そして、加東市の「人、もの、こと」について上巻と下巻ごとに一覧表にまとめることが出来た。 *全小学校において「加東遺産」めぐりの旅を実施し、ゲストティーチャーを招聘することで学習を深めることが出来た。						
評価 副読本の掲載内容について、教育研究所員会において協議や調整が順調に進み、進行率が20%であったので、評価を「B」とします。									
今後の課題 Action	取組	課題や改善点							
	①	*「ふるさと学習」の内容を精選し、編集作業を進める。 *学校や関係部署と連携を図り、ゲストティーチャーの登録を充実させる。							

【点検と評価】

基本方針1	小中一貫教育をとおして自立した子どもを育む学校教育の充実
基本的方向(4) ①	小中一貫校開校に向けた適切な準備

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	B				

所管課	学校教育課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	統合する小学校間や小中学校間で児童生徒の交流活動を実施した学級の割合	目標値	%	33	38				55
		実績値	%		40				
交流活動実施率55%以上:評価「A」、40%以上:評価「B」、33%以上:評価「C」、33%未満:評価「D」									
取組内容 Do	①小中一貫校開校に向けた児童生徒の交流活動と教職員研修の計画的な実施 1 小学校間の児童交流、小中学校間児童生徒交流の計画的な実施 *自然学校や水泳交歓会、陸上記録会等の行事において交流機会を設けた。 *小学校児童の中学校での部活動体験や授業体験を実施した。 2 計画的、継続的な教職員研修の実施 *全教職員が一堂に会する夏季研修を実施した。 *中学校区ごとにカウンセリングマインド研修を実施した。 3 小中一貫教育カリキュラムの早期作成と試行 *義務教育9年間を見通した系統性のある教科カリキュラムを作成した。 *校長・教頭合同会議を開催し、教科カリキュラムの方向性を整理した。								
	関連事業	① 道徳教育実践研究事業							
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	①	小中一貫校開校に向けた児童生徒の交流活動と教職員研修の計画的な実施	*自然学校を複数校が同じ日程で実施し、同じプログラムで活動することで小学校間の児童の交流を深めることが出来た。 *夏季研修会において先進校の実践から学ぶ機会を設定したことで、教職員に小中一貫校開校に向けての展望や自分たちがやるべきことについて理解を深めた。そして、その後のカリキュラムづくり等の準備がスムーズに行えるようになった。 *先行的に4教科(国語、社会、数学、理科)のカリキュラム作成に着手した。						
	評価	交流活動実施学級の割合が40%となり、順調に推移しているため、評価を「B」とします。							
今後の課題 Action	取組	課題や改善点							
	①	*小中学校間交流を児童会生徒会活動や体験活動等に広げる。 *教科カリキュラム作成等による教職員の負担軽減を図る。							

【点検と評価】

基本方針1	小中一貫教育をととして自立した子どもを育む学校教育の充実
基本的方向(4) ②	小中一貫校開校に向けた適切な準備

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	B				

所管課	教育総務課、学校教育課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	小中一貫校開校に向けた協議状況	目標値			協議・意見調整				H33開校
		実績値	回数		開校準備委員会 3				
H33開校(東条):評価「A」、順調に協議や調整ができた:評価「B」、協議や調整が遅れた:評価「C」、協議や調整できない:評価「D」									
取組内容 Do	②「小中一貫校開校準備委員会」の設置、運営 1 加東市東条地域小中一貫校開校準備 *開校準備委員会を開催した。 *先進校を視察した。 *専門委員会を開催した。 *専門部会を開催した。								
関連事業	② 小中一貫校測量、不動産鑑定								
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	②	開校準備委員会の立ち上げ、小中一貫校建設準備、小中一貫教育に関する情報発信	*開校準備委員会を開催(6/15、7/13、H29.1/30)し、先進校視察(8/30、9/5)を行い新設校の参考施設を見ることで、具体的なイメージを取得でき、以後の協議に活かした。 *専門部会で、スクールバスの運行や学校施設の基本方針を協議し、案を作成出来た。 □施設整備委員会(8/9、9/13、H29.1/30) □学校運営委員会8/9、9/13、H29.1/3) □学校教育委員会(8/9、9/13) ◇通学路等安全対策部会(9/13、10/11、11/11) ◇教室等設計部会(9/13、10/12、11/9、12/5) *小中一貫校建設に向けた測量や不動産鑑定など調査を行った。 *広報かとうや市ホームページを使用して、情報発信を行った。						
	評価	順調に協議を進められたので、評価を「B」とします。							
今後の課題 Action	取組	課題や改善点							
	②	開校準備委員会を小中一貫校開校に向け、検討や課題を協議するために、開校スケジュールに合わせ運営していく。							

【点検と評価】

基本方針2	「生きる力」としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進
基本的方向(1)	確かな学力・主体的に学ぶ態度の育成

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	B				

所管課	学校教育課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	家庭など学校での授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合(小・中)	目標値	%	61.9	62				70
		実績値	%		65.6				
平日の家庭学習の時間1時間以上が70%以上:評価「A」、65%以上:評価「B」、60%以上:評価「C」、60%未満:評価「D」									
取組内容 Do	①効果的な授業形態の展開								
	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導の課題を明確にするために、学力向上プロジェクト委員会を開催した。 2 10分間程度の短い時間に行う漢字学習や計算学習により、基礎基本の習得を図った。 3 児童生徒の学習上のつまづきを支援するために、学習チュータを配置した。 4 きめ細かい学習指導を行うために、少人数指導、同室複数指導を実施した。 5,6 放課後の補充学習や読書活動を推進した。 								
	②家庭学習の習慣化								
	<ol style="list-style-type: none"> 1 教員OBや教員を志望する大学生等を指導員として、自主学習室を夏季・冬季休業期間中に設けた。 2 家庭学習を支援するために、「家庭学習の手引き」を活用した。 								
	③理数教育の充実								
<ol style="list-style-type: none"> 1 小学校高学年で教科担任制による指導を実施した。 2 観察や実験のための教材・設備を充実させることで、理数授業の活性化を図った。 3 スペシャリストやゲストティーチャーを招へいたスペシャリスト特別授業を実施した。 4 「数学・理科甲子園ジュニア」への参加を促進した。 									
④特別支援教育の充実									
<ol style="list-style-type: none"> 1 一人一人の教育的ニーズにあった適切な合理的配慮提供を実施した。 2 スクールアシスタントや介助員等の教育支援員を配置し、特別な支援を要する児童生徒を支援した。 3 十分な情報提供を行い、一人一人の教育的ニーズにあった適切な就学指導、教育相談を実施した。 4 早期から一貫した支援を提供するため、サポートファイルや個別の指導計画などを活用した。 5 特別支援教育の市民向け啓発研修を実施した。 6 学校生活指導教員による通級指導を実施し、ソーシャルスキルトレーニングや教科学習の補充を行った。 									
⑤就学前教育の充実									
<ol style="list-style-type: none"> 1 幼稚園施設開放と教育内容の紹介のため幼稚園オープンを実施した。 2 幼保一元化のため、就学前教育保育関係者連絡会を実施した。 3 入園前の子どもを対象とし、園の教育活動や雰囲気親子で体験する場を設定した。 4 子育てに関する相談や情報の提供を行い、子育て支援の一助とした。 5 幼保こども園の合同研修会を実施した。 									

	関連事業	① 新学習システム推進事業、放課後における補充学習等推進事業、子どもの読書活動推進事業 ② 放課後チューター配置事業 ③ サイエンスライ・やる事業 ④ インクルーシブ教育システム構築事業 ⑤ 幼保小発達支援連絡事業	
成果と評価	取組	継続課題	成果
	①	児童生徒が主体的に学習しようとする意欲・態度を育む	*少人数指導、同室複数指導、放課後補充学習により、個々の課題に対応した学習指導ができ、児童生徒が意欲的に学習に取り組めた。 *学力向上プロジェクト委員会で、学習課題を明確にし、授業方法の工夫改善を行った。その結果全国学力・学習状況調査において、昨年度まで課題となっていた児童生徒の学習への関心に改善傾向が見られた。
	②	家庭学習の充実を図る	*家庭学習の手引きを作成したことにより、保護者とともに家庭学習ができるようになった。 *学習チューターを配置したことにより、主体的に学習に取り組む習慣が身についてきた。
	③	スペシャリスト特別授業やゲストティーチャーを招へいした授業の実施	*サイエンススペシャリストを招聘した特別授業を小学校2校で実施した。専門性の高い教員等から授業を受ける中で、小学校では、理科に興味をもち、進んで観察や実験を行う子どもが増えた。 *小学校理科担当者に対して、高校理科教諭による観察・実験実技研修を実施し、基本的な技能を習得させることが出来た。
	④	インクルーシブ教育システムの構築	*発達サポートセンター事業の実施準備を進めることで、切れ目のない支援提供の充実につなげることが出来た。
	⑤	合同研修会(幼小、幼保)	*幼稚園、保育園、こども園の教員が教育課程の合同様式を作成することで、共通の視点で幼児教育を考えることができるようになった。 *公開保育研修を合同で実施することで、園ごとの特色ある教育・保育を学ぶことが出来た。
	評価	平日の家庭学習の時間、1時間以上の割合が65.6%により、評価「B」とします。	
今後の課題	取組	課題や改善点	
	①	*小学校での教科担任制の導入、小・中学校の出前授業を積極的に行うことで、より専門性の高い学習指導ができるようにする。 *小6時から中3の学習状況調査の変化を検証し、学習による中1ギャップの改善を図れるよう学習指導を工夫する。	
	②	*家庭学習の手引きを効果的に活用できるように、各教科の宿題等を工夫する。 *学習チューターの配置を拡充することで、主体的に学習する習慣を定着させる。	
	③	*理数学習に対する子どもの関心・意欲をさらに高めるために、主体的・対話的で深い学びの実現を目指すなど指導方法の工夫改善を図る必要がある。 *電子黒板やプロジェクター等の機器やデジタル教科書等のコンテンツを有効に活用した授業を行うとともに、教職員が作成したコンテンツやリンク集等の共有化が課題である。	
	④	*新設する発達サポートセンター事業の周知を図り、より充実した支援や相談、研修等の事業を実施する必要がある。 *健康課、子育て支援課、社会福祉課のインクルーシブ関連事業を集約することで、より高い効果をあげるために、円滑な移行が必要である。	
	⑤	*こども園への移行にむけて、教育・保育の目標やカリキュラム等の検討が必要である。 *幼児期の教育・保育と小学校教育のより円滑な接続を図る必要がある。	

【点検と評価】

基本方針2	「生きる力」としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進
基本的方向(2)	自尊感情や思いやりの心の醸成

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	B				

所管課	学校教育課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	目標値	(%)	26.3	29				45
		実績値	(%)		32.8				
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合45%以上:評価「A」、27%以上:評価「B」、20%以上:評価「C」、20%未満:評価「D」									
取組内容 Do	①発達段階に応じた系統性を重視した体験活動の実施								
	1 命を大切にする心や思いやりの心、自尊感情や規範意識を養うなど、「心の教育」の充実を図るため、児童生徒の発達段階に応じた系統性を重視した体験活動を推進した。								
	4								
②異年齢交流や縦割り班活動の意図的・計画的な実施									
1 小学生と中学生と一緒に活動出来る機会を設定した。									
2 縦割り班活動の実施により、異学年交流を実施した。									
3 交流学年を決め、継続的に交流し合う機会を設定した。									
③家庭や地域と連携した道徳教育の充実									
1 「兵庫版道徳教育副読本」等の教材本を家庭保管とすることで、道徳教育を家庭へ広げる一助とした。									
2 授業参観、オープンスクール等での道徳の授業公開を実施し、家庭・地域と連携した道徳教育を推進した。									
3 道徳教育推進教師を中心に各校で道徳科に関する研修を実施した。									
関連事業	① 環境体験事業(小3) 自然学校推進事業(小5) わくわくオーケストラ教室(中1) トライやる・ウィーク(中2)								
	② 入学体験、部活動体験								
	③ 道徳教育実践研究事業、人権講演会								
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	①	児童生徒の実態や地域の実情に応じた活動内容の工夫	*学校・家庭・地域が連携し、新たな活動を実施するなど、活動内容の工夫を図ることが出来た。						
	②	縦割り班活動の実施	*異年齢の班構成による遠足や班遊びなどの交流活動を実施し、友達と意欲的に関わろうとする子どもの姿が多く見られた。						
	③	道徳科に関する研修の実施	*全校で道徳の教科化に対する研修を実施し、全ての教員が授業改善に取り組む機会となった。 *兵庫版道徳教育副読本や文科省「私たちの道徳」を活用した授業実践研修を行い、副読本の効果的な活用について研究を深めた。						
		評価	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合が32.8%であったため、評価を「B」とします。						
今後の課題 Action	取組	課題や改善点							
	①	*活動内容がマンネリ化してしまわないよう、児童生徒の実態や地域の実情に応じた活動内容の工夫に引き続き取り組む。							
	②	*小中一貫教育の導入に際し、小中学校間の交流をさらに進めていく必要がある。							
	③	*道徳の教科化に向けて、検定教科書の導入による年間指導計画の見直しや評価の導入に向けた研究が必要である。 *道徳教育を学校の教育全体を通して行き、いじめをやめさせる指導等の道徳的实践へつなげていくことが必要である。							

【点検と評価】

基本方針2	「生きる力」としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進
基本的方向(3) -1	心身の健康増進・個性の伸長

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	B				

所管課	学校教育課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合(小6・中3)	目標値	%	79.4	84				100
		実績値	%		83.2				
児童生徒の割合90%以上:評価「A」、80%以上:評価「B」、75%以上:評価「C」、75%未満:評価「D」									
取組内容 Do	①小中学校教員の情報共有による一貫した生徒指導の充実								
	<ol style="list-style-type: none"> 学級集団の状態(児童生徒の心理面)を把握するために、市立小中学校4年生以上の全児童生徒を対象にhyper-QU、QUテストを実施した。 いじめ対応チームが中心となっていじめの未然防止、早期発見・対応を行うために、学校と関係機関が連携した組織的な取組を推進した。 不登校生の内面理解と対応について教員が共有するために、対策委員会を開催し、スクールカウンセラー等と連携して細やかな関わりや粘り強い支援を行った。 ネットいじめや誹謗中傷等の相談に対応するため、特別監視員や関係機関と連携して支援・指導を行った。 有害情報やネットいじめ・誹謗中傷から子どもたちを守るために、インターネット上のトラブルや犯罪行為の早期発見・早期解決に向けた取組を行った。 広域に及ぶ青少年のインターネット上の非行や被害を防止するため、北播磨5市1町の連絡会議を開催し、情報の共有化に取り組んだ。 								
	②発達段階に応じた学校行事の実施								
<ol style="list-style-type: none"> 児童一人一人の個性や能力を伸ばすために、日常的な異学年交流や縦割り班活動等を実施した。 上級生や保護者に対する感謝の心を培うために、6年生を送る会等の学校行事において、児童生徒が意欲的に活動する機会を提供した。 									
③運動の習慣化と健康教育、地域と連携した食育の推進									
<ol style="list-style-type: none"> 小学校では、児童の泳力を伸ばしたり、他校の児童の模範となる泳ぎから学んだりするために、夏季休業中に水泳教室等を実施した。 中学校では、生徒に運動の楽しさを実感させたり、技能の向上を図ったりするために、体育的行事や部活動等を実施した。 小中学校では、児童生徒の運動能力・体力を計測して実態を把握し、より改善するための方法を模索するために、体力・運動能力テストを1学期に実施した。 低年齢段階から健康への影響を認識させ、誘惑に負けない態度を培うために、喫煙・飲酒・薬物乱用教育を計画的に実施した。 性に関する科学的知識や異性に対する正しい理解を深め、相手を大切にしたい行動がとれるようにするために、性教育を充実させた。 家庭や地域、高校等と連携して食文化への関心や理解を深めるために、学校給食を活用した食育を推進した。 									
関連事業	<ol style="list-style-type: none"> 児童生徒のいじめに関する実態把握調査 出前授業 部活動外部指導者派遣事業、食育推進事業 								
成果と評価	取組	継続課題	成果						
	①	スクールカウンセラーや臨床心理士を有効に活用した教育相談体制の充実、hyper-QUのアンケート結果を効果的に活用した学級集団づくりの教職員への周知。	*悩みを抱える保護者に対し、スクールカウンセラー等の教育相談を勧めたことで、保護者の心が安定し、その子どもも落ち着きが見えるようになった。 *hyper-QUのアンケート結果を効果的に活用した学級集団づくりの実践事例(分析と具体的対策)について冊子にまとめたことで、市内教職員の研修資料に資することが出来た。						

Check	②	学校における異年齢の子どものつながりの強化	*小学校では、児童会を中心に異年齢集団(縦割り班)での活動を行うことで、児童間の縦のつながりを強めることが出来た。
	③	運動部活動外部指導者の活用の拡大	*運動部活動の専門性の高い外部指導者の人数や時間数を増やしたことで、生徒の安全性と活動意欲を高めることが出来た。
	評価	児童生徒の割合が83.2%だったため、評価を「B」とします。	
今後の課題	取組	課題や改善点	
Action	①	いじめの定義を共通理解したり、学校いじめ防止基本方針の意義を再確認したりするために、教職員研修を開催し、いじめの未然防止・早期発見のための取組を充実させる。	
	②	小中一貫校の開校に向けた取組を進めるために、自校における異年齢の子どものつながりだけでなく、小学校間の子どものつながりを深める機会を提供する。	
	③	食育を推進するために、給食センターと各学校及び関係機関が連携し、和食の文化や伝統に対する正しい理解、正しい食事のとり方や望ましい食習慣を子どもたちが身につける機会を提供する。	

【点検と評価】

基本方針2	「生きる力」としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の推進
基本的方向(3) -2	心身の健康増進・個性の伸長

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	C				

所管課	学校給食センター								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	地元食材の使用率	目標値	%	16.2	17				18
		実績値	%		14.7				
年次目標値以上:評価「A」、基準値以上:評価「B」、基準値以下:評価「C」、数値の減少が続く:評価「D」									
取組内容 Do	③運動の習慣化と健康教育、地域と連携した食育の推進								
	<p>7 献立作成において、地元食材の使用促進、さらに、子どもたちからのリクエストメニューや新メニューを取り入れるなど工夫した。「かとう夢プラン 楽しみのある学校給食特別メニュー」(毎月1回)の提供した。</p> <p>8 毎月の「かとうの献立」「かとうの給食」の配布や給食試食会、給食センター見学会、親子料理教室等を実施した。社高校生活科学科と連携した「学校給食研究事業」を実施した。</p> <p>9 和食をテーマとした学校給食の提供を行った。</p>								
関連事業	③ 給食指導訪問、給食試食会、給食センター見学会、親子料理教室、社高校生活科学科との連携、楽しみのある学校給食特別メニュー								

成果と評価	取組	継続課題	成果
Check	③	*地元生産者からの食材確保増加 *かとう夢プランの新メニューを考案	<p>*色々な食品をバランスよく使い、同じ献立が重ならないように、和風・洋風・中華と色々な種類のものを工夫して取り入れ、行事食や旬の食材の提供、地元食材の使用促進など食に関心を持ってもらえるよう工夫した。その結果、見学会などのアンケートでも学校給食の食材や栄養面、給食費などについても理解され、感謝の言葉が多くあった。</p> <p>*今年で5年目を迎えた社高校生活科学科との連携事業である「学校給食研究事業」では、高校生の考案した献立(11月30日)を提供した。</p> <p>*平成25年度から実施の「かとう夢プラン 楽しみのある学校給食特別メニュー」(毎月1回)の提供においては、加東市の学校給食の特色を出して食への興味・関心を高め、より一層の魅力ある学校給食の充実を図ることが出来た。</p> <p>*児童・生徒の心身の健全な発達と食に関する正しい理解と適切な判断力を養い、学校給食を活用した食に関する指導及び学校における食育の推進を図ることが出来た。</p> <p>*食育の推進に向けては、給食の献立を「生きた教材」として活用しながら給食指導訪問を1年間通して実施した。</p> <p>*かとう和食の日(11/24)に運動して、学校給食(11/17)に和食を提供した。</p> <p>*給食センター、学校、家庭との連携による食育推進を図る為、毎月の「かとうの献立」「かとうの給食」の配布や給食試食会、給食センター見学会、親子料理教室等を実施することが出来た。</p>
	評価	地産地消に取組み食育の推進ができたが、基準値以下のため評価を「C」とします。	
今後の課題	取組	課題や改善点	
Action	③	農産物等の地産地消の推進については、生産者グループや関係団体等と連携しながら地元生産者の新規納入業者登録を図るとともに、登録された地元生産者へ前年度の月別野菜使用実績等の情報を提供し、さらに地元の食材の確保に努める。 また、加東市独自である「かとう夢プラン 楽しみのある学校給食特別メニュー」の新メニューを考案していく。	

【点検と評価】

基本方針3	子どもたちの学びや育ちを支える仕組みの確立
基本的方向(1)	学校の組織力及び教職員の資質能力の向上

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	B				

所管課	学校教育課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合	目標値	(%)	78	81				95
		実績値	(%)		80.1				
授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合95%以上:評価「A」、80%以上:「評価B」、70%以上:評価「C」、70%未満:評価「D」									
取組内容 Do	①計画的・継続的な教職員研修の実施								
	1 今日的な教育課題に対応した実践的な指導力の向上を図るため、教職員の職務内容に応じた各種研修を実施した。								
	2 ②保護者や地域住民に開かれた学校づくり								
	1 学校の特色や地域の実態を踏まえた学校づくりのため、学校評価の公表や、学校評議員制度の活用を通して、保護者や地域住民の意向を学校運営に反映するよう努めた。								
③教職員の円滑な職務遂行のための職場環境の整備									
1 セクシャル・ハラスメントやパワー・ハラスメント等のない、一人一人が意欲を持って教育活動にあたることのできる教職員相互の協力・協働の職場づくりを推進した。									
2 ③メンタルヘルスの保持増進とワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境づくりのため、勤務時間の適正化を推進した。									
3									
5									
関連事業	① 教職員夏季研修 シリーズ研修 Hyper-QU事例検討会 学校経営研究発表会 教職員の短期海外研修 児童生徒の考える力を高める授業実践研修								
	② 学校評価の実施 学校評議員制度の活用								
	『セクシャル・ハラスメントのない学校に』(兵庫県教委)等を活用した研修の実施								
	③ 『パワー・ハラスメントの防止に向けた取扱指針』(兵庫県教委)の徹底 メンタルヘルスの保持増進に配慮した校内体制等の構築 校務支援システムの活用 「教職員定時退勤日」「ノー部活デー」の完全実施								
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	①	本市の教育課題や各学校の課題解決のための研修の充実	小中一貫教育先進校の視察や各種研究会への参加、海外視察研修等、本市の課題に対応した研修を実施した。そして、「小中一貫教育」について教職員の意識が高まり、「特別支援教育」のシリーズ研修では、教員が子どもへの理解を深め、環境の整備に取り組むことが出来た。						
	②	学校評価結果を踏まえた学校運営の改善	学校評議員会や保護者・住民アンケート結果を取り入れた学校評価を実施し、学校運営の改善に活用することが出来た。						
	③	教職員定時退勤日・ノー部活デーの実施	全ての学校において、定時退勤・ノー部活デーの実施に取り組むことが出来た。						
	評価	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合が80.1%だったため、評価を「B」とします。							

今後の課題 Action	取組	課題や改善点
	①	小中一貫教育の推進、英語教育の充実、道徳教育の充実等、本市の教育課題に応じた研修に引き続き取り組む。
	②	保護者の意見や地域の実態を踏まえ、PDCAサイクルによる組織的・継続的な学校運営改善に努める。
	③	定時退勤日やノ一活デーの完全実施に引き続き取り組む。

【点検と評価】

基本方針3	子どもたちの学びや育ちを支える仕組みの確立
基本的方向(2) 1 2	安全・安心で信頼される学校づくり

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	B				

所管課	学校教育課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	避難訓練、防災訓練、防犯訓練等の実施回数	目標値	回	47	48				50
		実績値	回		47				
避難訓練、防災訓練、防犯訓練等の実施回数 50回以上：評価「A」、47回以上：評価「B」、46回未満：評価「C」、45回未満：評価「D」									
取組内容 Do	①保護者や地域住民の参画を得た学校行事の積極的な実施 1.2 学校・家庭・地域の連携をより強化し、信頼される学校づくりを行うため、保護者や地域住民が参加できる学校行事等を実施した。 3 保護者や地域住民が学校行事に参画しやすい雰囲気づくりを行うため、学校便りやホームページ等とおして積極的な情報発信に努めた。								
	②子どもたちが安全な環境の中で、安心して学校生活を送れる環境づくり 1.2 避難訓練や防犯訓練など、安全に関する教職員の知識・技能の向上を図るため、研修機会の充実を図った。 3.4 子どもたちの安全を守るための取組を推進するため、学校・家庭・地域が連携し、防災訓練や引き渡し訓練等を実施した。								
	関連事業	① 運動会、体育祭、音楽会、文化祭等の学校行事 ふるさと学習、体験学習 ホームページ、学校だよりでの情報発信 ② 避難訓練、防犯訓練、防犯教室 教員研修(不審者対応等) 引き渡し訓練 学校自主防災組織合同訓練							
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	①	個人情報に配慮した積極的な情報発信	ホームページに掲載された写真等から生徒個人が特定されないよう配慮しつつ、定期的に学校の情報を発信することが出来た。						
	②	様々な状況に対応するための防災訓練の実施	各学校の防災訓練の取組について共有し、より実践的な訓練方法について検討することが出来た。						
	評価	避難訓練、防災訓練、防犯訓練等の実施回数が、47回だったため、評価「B」とします。							
今後の課題 Action	取組	課題や改善点							
	①	保護者や地域住民にタイムリーな情報を提供できるよう、学校だよりの充実やホームページの定期的な更新に引き続き取り組む。							
	②	児童生徒及び教職員の防犯意識・判断力・行動力を高めるため、防犯教室や防犯訓練の充実を図る。							

【点検と評価】

基本方針3	子どもたちの学びや育ちを支える仕組みの確立
基本的方向(2) 3	安全・安心で信頼される学校づくり

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	A				

所管課	教育総務課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	安全・安心、快適な施設に向けた事業の取組み件数	目標値		なし	事業実施				
		実績値	小(件数) 中(件数)		3(トイレ洋式化) 3(電子黒板)				
順調に実施できた:評価「A」、実施できたが課題が残った:評価「B」、課題等により事業が遅れた:評価「C」、事業ができなかった:評価「D」									
取組内容 Do	<p>③学校教育施設や教材等などの教育環境や就学支援の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> *東条地域小中一貫校開校に向けた不動産鑑定や物件補償調査などを行った。 *質の高い教育環境の充実を図るため、老朽化や不足する中学校吹奏楽部の楽器やその他教材備品を購入した。 *安全・安心な教育環境の整備のため、小学校・中学校施設を改修した。 *学校環境を改善するため、小学校のトイレ洋式化工事を実施した。 *大型電子黒板やデジタル教科書の整備及び老朽化したICT機器の更新を行った。 *就学援助・就学奨励の補助を実施した。 <p>関連事業 ③ 小中学校の施設改修工事、小学校のトイレ洋式化工事、就学援助事業</p>								
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	③	学校現場の実情把握と調整を図る	<p>*東条地域小中一貫校開校に向けた調整を行い、用地取得や学校建設の準備を進めることが出来た。 *平成25年度から小中学校に老朽化した楽器を更新してきたが、平成28年度で最終年の中学校吹奏学部の楽器購入を行った。</p> <p>また、小中学校へデジタル教科書を導入するなど、質の高い教育環境の整備が出来た。 *老朽化した学校施設の整備・改修工事(社中学校:倉庫の改築)やトイレの洋式化工事(社小学校・滝野南小学校・三草小学校)、滝野東小学校プールの改修を実施し、学校環境の改善が出来た。 *3中学校に大型電子黒板を追加し、老朽化したICT機器の更新を行い、教育環境の整備が出来た。 *生徒の12%に就学援助を実施し、就学の支援が出来た。 *各学校・園へ出向き、現場確認を行い、状況把握を行った。</p>						
	評価	年度計画どおりに事業が実施できたので評価は「A」とします。							
今後の課題 Action	取組	課題や改善点							
	③	<p>*東条地域小中一貫校開校に向けた用地交渉や開校準備委員会での協議、学校施設建設を計画どおり進めていく。 *既存校は、必要な修理を実施しながら、学校間の均衡を図り、更なる学校現場の実情把握及び学校との調整を図っていく必要がある。</p>							

【点検と評価】

基本方針3	子どもたちの学びや育ちを支える仕組みの確立
基本的方向(3)	子どもたちの健全な成長を見守り支える体制づくり

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	B				

所管課	学校教育課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	各校で開催している「情報モラル研修会」に参加した保護者、地域住民の人数	目標値	(人)	814	900				1000
		実績値	(人)		918				
各校の「情報モラル研修会」に参加した割合、1000以上:評価「A」 900人以上:評価「B」 800人以上:評価「C」 800人未満:評価「D」									
取組内容 Do	①学校・家庭・地域と社会教育関係機関が一体となった環境づくり								
	1 地域の中で豊富な経験ができるように、学校オープン等で地域の方と共に活動する機会を増やした。 2 通学路、地域のより一層の安全確保のため、「子ども見守り隊」の活動への協力を呼びかけた。 3 運動部活動のより専門的な技術指導の充実を図るため、運動部活動外部指導員を拡充した。 4 インターネット上のルールやマナーの向上を図るため、各小中学校で情報モラル研修会を実施した。								
	②子どもと子育て家庭を支える仕組みづくり								
成果と評価 Check	1 保育園、幼稚園の年長児を支援するために、幼保小発達支援連絡会を開催した。 2 地域に開かれた園づくりを目指して、幼稚園オープンを実施した。 3 地域全体として、子どもの成長を支える環境をつくるために、ホームページや園だより等を発信した。 4 児童虐待等の多様な課題に対応するために、スクールソーシャルワーカーを活用し、関係機関と連携した家庭支援を行った。								
	関連事業	① いきいき学校応援事業、子ども見守り隊、運動部活動外部指導者派遣事業 ② 認定こども園の整備、スクールソーシャルワーカー配置事業							
	取組	継続課題	成果						
	①	スマートフォンやSNS等を利用する際の学校や家庭でのルールづくり等、情報社会を生きる上での児童生徒の自主的・主体的な取組ができるようにする。	*地域の「子ども見守り隊」による登下校の見守り活動及び青パトによるパトロールにより、登下校の安全が確保出来た。 *情報モラルの向上を図るために、市内4中学校で統一したSNSのルールをつくることが出来た。						
	②	こども園への移行に向けて、カリキュラム等の検討を重ねる。	*こども園への移行に向けて、カリキュラムの検討を重ね、教育・保育内容の準備を進めることが出来た。 *保幼小連絡会や関係機関との連携により、特別な支援が必要な幼児への取組が進んできた。						
	評価	各校の「情報モラル研修会」に参加した人数が918人だったので、評価「B」とします。							
今後の課題 Action	取組	課題や改善点							
	①	*中学校の部活動において、若手教員の育成は比較的すすんでいるが、生徒の多様なニーズに応えられない状況や安全確保ができない状況が依然として懸念されるため、引き続き外部指導者を活用する必要がある。							
	②	*幼児期の教育・保育と小学校教育の円滑な接続を一層図るため、幼児と児童の交流や教職員の合同研修をする必要がある。							

【点検と評価】

基本方針3	子どもたちの学びや育ちを支える仕組みの確立
基本的方向(4)	家庭の教育力の向上

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	B				

所管課	青少年センター、学校教育課、生涯学習課							
目標設定 Plan	成果指標	単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	保護者等を対象とした各種講座の回数	目標値	30	33				45
	実績値			32				
	講座回数45回以上：評価「A」、講座回数30回：評価「B」、講座回数25回：評価「C」、講座回数25回以下：評価「D」							
取組内容 Do	①親の学びの機会の提供、関係機関の連携による地域が家庭を見守る体制づくり 1 インクルーシブ教育の啓発を進めるために、保護者一般市民向けの研修会を実施した。 2 スクールカウンセラーと連携し、保護者の悩みを受け止めるために、校内教育相談体制を充実させた。 3 いじめ等の問題で悩む保護者等を支援するために、青少年センターが積極的に関わりながら相談に応じた。 *「あったか加東伝の助かるた大会」、「地域子ども教室」、「新成人の集い」などの事業を実施した。 *加東市子ども会育成連絡協議会、市内2つのボーイスカウト団体とも市と連携し実施した。 4 *小学生チャレンジスクールを実施した。 *「加東市ノーベル大賞」を実施した。 *加東市連合PTAと連携して、研修会等を実施した。							
	関連事業	① 不登校対策委員会、スクールソーシャルワーカー配置事業 *ひょうご放課後プラン(子ども教室)事業、あったか加東伝の助かるた大会、成人式事業 *青少年育成団体活動支援事業(市子連協・ボーイスカウト) ※市子連協:書初め大会、夏休み体験教室、ドッジボール大会、サッカー大会、オセロ大会などを開催 *小学生チャレンジスクール事業 *加東市ノーベル大賞、親子活動、親学習						
成果と評価	取組	継続課題	成果					
Check	①	*スクールカウンセラー等を有効に活用した教育相談体制の充実 *PTAと協調した事業の実施と親学習・家庭教育の充実に向けた研修	*悩みを抱える保護者が継続的にカウンセラーや青少年センターに相談を持ちかけたことで、心の安定につながっていった。 *「あったか加東伝の助かるた大会」、「地域子ども教室」、「新成人の集い」を通じて、子ども達に加東市で生まれ育つ喜びを友や家族、また地域の人達と共に味わい、郷土愛を高め、地域の歴史や伝統を次代へとつないでいくことの大切さを学ぶことが出来た。また、「地域子ども教室」においても、地域の人たちや異年齢の子ども達と一緒に活動することで、人間関係や上下関係、規律、道徳心等を理解し、仲間づくりの術を学ぶことが出来た。 *「小学生チャレンジスクール」を通じて、様々な体験活動や学習活動を行うことで自らの知識や技術の向上につながった。 17事業34教室(キャンプ、ハイキング等の野外活動、トールペイントや陶芸等の製作活動、茶道や生花等の伝統文化活動など) 「加東市ノーベル大賞」では、子ども達が地域の自然や環境観察を行うことで、故郷への思いや自然・環境の大切さを学ぶことが出来た。 *加東市連合PTAと連携して、研修会等を実施することで、地域の子どもの大人が連携して育てていくことの意識向上につながった。 講演会「もっと楽しい子育てのススメ～家庭と地域で子どもを守り育てる～」 大阪教育大学教育学部教員養成課程家政教育講座(保育学)准教授 小崎 恭弘 氏					

		評価
		講座回数が32回であったため、評価を「B」とします。
今後の課題	取組	課題や改善点
Action	①	<p>*発達支援サポートセンター事業の一環として、保護者一般市民に加え、アシスタントや介助員向けの研修会を実施する。</p> <p>*子ども教室は、参加者の増員、アフタースクールとの連携等、それぞれに取り組みを行い参加者を増やすべく協議計画していたが、同時、同場所開催のアフタースクールとの相互交流協議が実施できなかった。引き続き子ども達の増員、指導者、アドバイザーの人員の確保とアフタースクールとの連携交流協議に努める必要がある。</p> <p>*公共施設適正化計画並びに小中一貫校の方向性を注視しながら、新たな教室のあり方等、実行委員会で深く検討する必要がある。</p> <p>*引き続きPTAと協調して、親学習・家庭教育の充実に向けた研修を計画的に、かつニーズに応じた研修を行う必要がある。</p>

【点検と評価】

基本方針4	生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成
基本的方向(1)	生涯を通じた学びの機会・場の提供

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	A				

所管課	生涯学習課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	講座や講演会の参加者数の増減(市主催事業通年分)	目標値	—	設定なし					
		実績値	人		10,540				
講演会など参加者数の増:評価「A」、参加者数が前年とほぼ同じ:評価「B」、参加者数の減少:評価「C」、参加者数が大きく減少:評価「D」									
取組内容 Do	①各年代に応じた学習、施策の取組								
	<p>1 *高齢者大学、文学講座、加東遺産講座、成人学習講座を継続して実施した。</p> <p>5 ※子ども達には、青少年健全育成事業で対応した。</p> <p>4 平成28年度登録サークル数(滝野公民館28、社公民館29、東条公民館16、さんあいセンター44、明治館7、コミュニティセンター東条会館11の計135団体)</p>								
	②社会教育関係団体の支援								
	<p>1 *市連合婦人会、市連合PTAの団体の活動がより活発化するよう、自主性を重んじながら、各団体の設立趣旨も確認しつつ社会教育上の支援を行った。</p>								
	③芸術・文化活動の振興								
<p>*市公募美術展、市文化祭、ギャラリー収藏品展、加東文化振興財団及び新しい風かとうによる各種文化芸能事業等を実施し、市の文化振興を図った。</p> <p>*市制10周年記念事業として、兵庫県川柳祭in加東を開催し、川柳の普及と創作活動の活性化及びレベルの向上に努めた。</p> <p>1 *東はりまみんよう大会及び緑の回廊囲碁大会を本市(当番市)で開催した。</p> <p>*市文化祭は前年度と同様、市秋のフェスティバルと同日・同会場で開催し、文化薫るイベントとして開催した。</p> <p>*新しい風かとうによる第27回日本木管コンクール(フルート部門)を東条文化会館で開催し、レベルの高い演奏を行った。</p>									
④芸術・文化団体の支援									
<p>*市文化連盟、市美術協会、また公民館やコミュニティセンターを使用される文化団体の支援を行った。</p> <p>*各公民館ごとに志向を凝らした活動発表の場を提供した。</p> <p>*公民館やコミュニティセンターを使用される文化団体には、施設使用に関する説明会を開催した。</p> <p>1 *市文化連盟は、「市文化連盟祭」を通じて、各部会の発表会を実施します。後継者の育成や青少年の健全育成を目的に、「市子ども絵画公募展」、福祉施設等への慰問活動、地区行事への支援活動など積極的に展開し、地域の文化団体として貢献した。</p> <p>*市美術協会は、「市美術協会展」や研修会の開催のほか、市文化連盟主催の「市子ども絵画公募展」を支援し、市文化連盟と協調したなかでの地域貢献活動を展開した。</p>									
関連事業	<p>① 高齢者大学、成人学習講座、各公民館定期登録団体</p> <p>② 連合婦人会・連合PTAへの支援</p> <p>③ サークル活動支援・市公募美術展事業、市文化祭事業、ギャラリー活用事業、加東文化振興財団文化事業(委託)、新しい風かとう(委託)</p> <p>④ 芸術・文化団体の育成・活動支援(市文化連盟、市美術協会)</p>								

成果と評価		取組	継続課題	成果
Check	①		人を引き付ける魅力ある新たな成人向け講座の開設	<p>*公民館に来ることが少ない青年層や壮年世代を対象とした講座を開設し、成人向け、高齢者向けと各年齢層に対する学習機会を提供することが出来た。</p> <p>*各世代向けの講座開設や多様なジャンルのサークルを公民館等の登録サークルとして組み込み、市民に提供することが出来た。</p> <p>*日程調整等を行ったことで、スムーズに使用できる環境提供に努めたほか、新たな団体発足に向けた相談等にも適切に対応するなど、市民が望む文化・芸術活動の支え役としての役割を果たすことが出来た。</p>
	②		自分のためでなく、人のため、地域のためといった行動がとれる団体の育成	*市連合婦人会、市連合PTAの団体は、自らの団体の役割を十分に認識し、子育て、人権、環境問題などに係る様々な分野に参加され、各々の役割を果たすことが出来た。
	③		効果的かつ合理的に行うため、文化連盟や秋のフェスティバル実行委員会と十分に調整し実施	*文化連盟や秋のフェスティバル実行委員会と調整し、効率的に実施することが出来た。
	④		自分たちの団体、活動だという意識を強く持って活動ができる後継者の育成	*「市美術協会」については、文化・芸術・芸能などの分野で、自己の研鑽や生きがいづくり、コミュニティの増進等を目的とするサークル活動を支援し、多種・多様な市民のニーズに応えられる生涯学習の受け皿としての役割を果たすことが出来た。
		評価		講座や展示会などの参加者が前年度と比べ増えたので、評価を「A」とします。
今後の課題		取組	課題や改善点	
Action	①		成人向け講座の「ギター弾き語り教室」については、参加者数が募集定員を下回り続けているため、次年度はこれを取りやめる。今年度の参加者の中で、有志の方々が自主的にサークル活動を行っていく意向があるため、これを支援しつつ、引き続き、魅力ある新たな成人向け講座を開設する必要がある。	
	②		社会教育団体の存続・活性化が難しい状況が続くなか、自分のためでなく、人のため、地域のためといった行動がとれる団体の育成は、社会教育上大切なことだと認識し、粘り強く、継続して支援していく必要がある。そのためには、主として動く人を見だし、つながりを深め、時間と工夫など公民館として後方支援を行っていく必要がある。	
	③		効果的かつ合理的に行うため、文化連盟や秋のフェスティバル実行委員会と十分に調整し実施する必要がある。	
	④		引き続き、自分たちの団体、活動であるという意識を持って活動できていくよう指導していく必要がある。	

【点検と評価】

基本方針4	生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成
基本的方向(2)	文化財保護の推進と活用

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	A				

所管課	生涯学習課								
目標設定 Plan	成果指標	単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32	
	文化財調査により得られた資料の公開・活用の回数	目標値 実績値	設定なし	8					
資料の公開などを多数実施+新たな取組:評価「A」、資料の公開などの実施:評価「B」、実施数の減少:評価「C」、保護や活用できない:評価「D」									
取組内容 Do	①文化財の保護・活用								
	<p>*文化財保護対策事業では、指定文化財修理補助事業、防火設備管理事業、無形民俗文化財の後継者育成事業、文化財保護活動として見学会、講演会や出前講座とともに、その意識を高める広報・啓発活動にも努めた。</p> <p>*埋蔵文化財事業では、開発事業に伴う試掘・立会調査、開発照会事務を行った。</p> <p>2 *加古川流域滝野歴史民俗資料館、三草藩武家屋敷旧尾崎家では、常設展示の公開・運営はもとより、民俗資料館の館蔵資料の整理も順次努めた。</p>								
関連事業 ① 文化財保護対策事業、埋蔵文化財調査事業、歴史民俗資料館事業、三草藩武家屋敷管理事業									
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	①	*埋蔵文化財の出土遺物や民俗資料館の資料を利用・活用、展示、保管 *施設の維持管理	<p>*市制10周年記念事業「加東市の文化財」を、市内3地域を回る巡回展のスタイルをとり地元の方が来場しやすいよう配慮して開催した。展示内容は、加東市内全域の資料を対象とすることで、他地域以外に所在する貴重な文化財に触れる機会を提供出来た。</p> <p>*加古川流域滝野歴史民俗資料館講座「見る・触れる」文化財教室(全4回)を開催し、体験学習型の講座として実物に触れる機会を提供し文化財への造詣を深めることが出来た。</p> <p>*文化財の保護及び啓発を図り、加東市の文化財の活用及び広報紙への掲載などを実施することが出来た。</p> <p>*埋蔵文化財事業では、法に基づき適正に開発事業に伴う試掘・立会調査(32件)、開発照会事務(217件)等を行った。</p> <p>*文化財保護対策事業では、指定文化財修理補助事業(5件)、防火設備管理事業(3件)、無形民俗文化財の後継者育成事業(4件)、文化財保護活動として見学会(1件)、講演会や出前講座(4件)とともに、その意識を高める広報*啓発活動にも努めることが出来た。</p> <p>*民俗資料については、寄贈・寄託(4件)、活用として資料貸出(2件)に努めた。</p>						
評価		資料の公開や講座の開催など多数実施できたので、評価を「A」とします。							
今後の課題 Action	取組	課題や改善点							
	①	<p>*加古川流域滝野歴史民俗資料館については、外壁の小規模なクラック補修が望ましいとの指摘があり、公共施設の適正化計画と整合性を図りながら実施時期について工事を検討していく必要がある。</p> <p>*文化財の適正な長期保護の観点から、恒久的な管理施設を完備し、かつ展示して広く公開することが可能となる施設及び保存環境に左右される文書・絵画の保存施設についても検討していく必要がある。</p> <p>*引き続き、文化財の保護及び普及・啓発を図るとともに、市民の貴重な文化財の活用及び広報に努める必要がある。</p>							

【点検と評価】

基本方針4	生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成
基本的方向(3)	生涯スポーツの普及と振興

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	B				

所管課	生涯学習課								
目標設定 Plan	成果指標	目標値	単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	気軽に参加できる生涯スポーツ大会数〔実績〕	実績値	— 大会数	設定なし	9				—
大会など多数参加：評価「A」、参加数は前年より減ったが内容は充実：評価「B」、参加者数の減少が続く：評価「C」、大会等の未実施：評価「D」									
取組内容 Do	①生涯スポーツの振興とコミュニティづくりの支援								
	<p>1 *生涯スポーツを通じて、市民の健康保持・増進、地域コミュニティの育成につなげていくための事業を実施した。</p> <p>5 「地区親善ソフトボール大会」、「地区親善バレーボール大会」、「ゲートボール大会」、「ペタンク大会」、「グラウンドゴルフ大会」、「卓球大会」、</p> <p>3 「パークゴルフ大会」、「加東伝の助マラソン大会」、「市民ハイキング」</p> <p>②スポーツ団体の支援</p> <p>*施設利用における支援は、市民の自主的なスポーツサークル活動を支援することで、市民の健康増進はもとより、市のスポーツの振興や市民のスポーツニーズの受け皿になっていただけよう支援を行った。</p> <p>1 *次の団体に、優先的な体育施設の使用予約、使用料金の減免などの優遇措置を図りつつ、活動の支援を行った。 ※平成28年度：市体育協会加盟団体17協会(連盟)165団体、スポーツ少年団8種目25団体、その他市内のスポーツサークルは83団体。(体育協会加盟団体と一部に重複あり。)</p> <p>*活動補助は、市民のスポーツ活動の推進・振興体系の中核を担っている市体育協会に補助し、活動の支援を行った。</p> <p>2 *市体育協会加盟団体17協会のうち、各協会ごとに加入しているスポーツ団体に対して助成や支援を行った。 *スポーツ団体及び市民アスリートに対する支援については、活躍や成績に対して、荣誉と誇りを市民共々が共有できるように、「スポーツ賞」、「スポーツ賞賜金」を贈った。</p>								
関連事業	① 地区親善ソフトボール大会、ふれあい球技大会(地区親善バレーボール大会、ペタンク大会、グラウンドゴルフ大会、卓球大会、ゲートボール大会、パークゴルフ大会)、加東伝の助マラソン大会、市民ハイキング								
	② 体育協会補助金・スポーツ賞制度・代表選手賞賜金制度・体育施設維持管理事業								
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	①	<p>*各事業の内容、会場等を精査、人員確保と安全対策</p> <p>*多種のスポーツに参加できる体制が整っていること</p> <p>の市民への周知</p> <p>*年間使用計画と施設利用の調整</p> <p>*施設利用者の混乱を避けるため、体育協会をはじめ、各種団体等に周知</p>	<p>*各種目とも多くの市民の参加が得られ、技術の向上や地域、世代を越えたコミュニティの推進が図られた。</p> <p>*各大会開催には、市体育協会(各種目協会含む)、市スポーツ推進員等の協力も得られ、市民の手による市民のための大会が開催出来た。</p> <p>*「加東市伝の助マラソン大会」については、会場を県立播磨中央公園に移して5年目となり、市民に親しまれる大会として定着させることが出来た。</p>						
②	なし	*今年度においてもスポーツ団体の支援として、施設利用における支援及び活動補助並びに活躍するスポーツ団体及び市民アスリートに対する支援が適切に実施できた。							

	評価	各大会をする中で、延期や参加者の減がみられたが、大きく減少していないので、評価を「B」とします。
今後の課題	取組	課題や改善点
Action	①	*公共施設の適正化計画で廃止となる施設が決定するのに伴い、現在の定期利用団体との調整等を密に行い年間使用計画に支障が生じないように調整を図っていく必要がある。また、施設利用者の混乱を避けるため、体育協会をはじめ各種団体等に周知を図っていく必要がある。 *市民が気軽に生涯スポーツに取り組めるよう、また触れることができるよう各種イベントを開催するとともに、スポーツサークルの育成に努める必要がある。
	②	今後においても、引き続きスポーツ団体の支援を行う必要がある。

【点検と評価】

基本方針4	生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形成
基本的方向(4)	社会教育・体育関係施設の管理・運営

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	A				

所管課	生涯学習課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	安全で快適な施設の管理事業を行った件数	目標値	—	設定なし					—
		実績値	件数		5				
計画どおり実施:評価「A」、実施に多少の遅れ:評価「B」、実施が大きく遅れた:評価「C」、事業ができない:評価「D」									
取組内容 Do	①社会教育・体育関係施設の管理・運営								
	<p>3公民館、3コミュニティ施設、3文化会館、6体育館、9グラウンド、滝野複合施設、明治館、加古川流域滝野歴史民俗資料館、三草藩武家屋敷の管理・運営と市民に喜ばれる施設として活用いただけるよう適切な運用と効果的な維持管理を行った。</p> <p>そして、公共施設適正化計画の方針決定に伴い廃止となる施設については維持費の投資を抑え、存続となった施設については適切な維持管理・運営を行った。</p> <p>平成28年度の主な工事等</p> <ul style="list-style-type: none"> *やしろ国際学習塾の1階トイレ改修工事及び防犯カメラ設置工事 *1 公民館のバリアフリー化改修工事 *滝野文化会館のエレベーター設置工事 *東条文化会館用地買収 *社武道館の天井改修設計業務 *滝野総合公園体育館の天井改修工事 *社コミュニティセンターの譲渡 								
	関連事業	① 3公民館、3コミュニティ施設、3文化会館、6体育館、9グラウンド、滝野複合施設、明治館、加古川流域滝野歴史民俗資料館、三草藩武家屋敷 維持管理事業							
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	①	*施設の維持管理は、順次整備、改修に努め、快適な使用環境を提供 *防犯対策	*施設の維持管理は、順次整備・改修に努め、快適な使用環境の提供に努めることが出来た。 *廃止となる施設は維持費の投資を抑え、存続となった施設については適切な維持管理・運営が実施出来た。 *借地解消に向けて、東条文化会館用地12名の地権者と交渉が成立し取得することが出来た。						

	評価	予定どおり施設の整備や改修、用地買収ができたので、評価を「A」とします。
今後の課題	取組	課題や改善点
Action	①	防犯カメラの設置について、防犯上特に必要と認められる施設及び設置箇所を十分に検討し整備していく必要がある。引き続き利用者との協調をより深め、利用者と管理者が共同し、より安全で安心できる環境を整える必要がある。

【点検と評価】

基本方針4	生涯学習による、だれもが生きがいをもてる社会の形
基本的方向(5)	市立図書館の充実

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	B				

所管課	図書館								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	図書館利用の市民登録率	目標値	%	47	48				50
		実績値	%		49.5				
市民登録率目標以上:評価「A」、順調に登録率上昇:評価「B」、登録率低下:評価「C」、登録率低迷:評価「D」									
取組内容 Do	①資料提供・情報提供の充実								
	<ol style="list-style-type: none"> 広報及びケーブルテレビ、図書館だより(H28年8月から隔月)により情報提供を行った。 図書館システムを利用し、図書や雑誌などの貸出を行うとともに、ウェブ予約によるサービス充実に努めた。 学校との連携を図り団体貸出しを実施した。 								
	②魅力ある蔵書の整備・充実								
<ol style="list-style-type: none"> 図書館資料収集基準及び廃棄基準に基づき蔵書の整備・充実に努めた。 予約資料や郷土資料を購入した。 雑誌スポンサー制度の導入により、雑誌コーナーの充実を図った。 特設展示コーナーを設置し、図書を案内した。 									
③図書館利用の推進									
<ol style="list-style-type: none"> おとどけ図書館及びおでかけ図書館を実施した。 絵本のおはなし会を4館で実施するとともに人権教育課と連携し館外でも行った。 健康課と連携し、4か月検診の親子に「はじめてであう絵本」を実施した。 図書館の会議室を学習室として活用した。 読書活動推進事業として、利用者参加型の事業を展開した。 図書館相互利用推進事業(加西市・西脇市・多可町の返却本の預かりサービス) 									
関連事業	<ol style="list-style-type: none"> 図書館システムの維持管理、団体貸付 図書等の資料購入、雑誌スポンサー制度 おとどけ図書館、おでかけ図書館、絵本のおはなし会、はじめてであう絵本、読書活動推進事業、特設展示コーナー 								

成果と評価	取組	継続課題	成果
Check	①	資料提供・情報提供の充実、市民への情報提供方法	図書館だより(8月から隔月を発行)で情報提供した。
	②	特別展示等の開催、雑誌スポンサー制度の充実	*毎月、各館で話題性や季節の行事などテーマを決めて展示を行うことにより、蔵書の活用を図った。 *雑誌スポンサー4社で18冊
	③	おとどけ図書館の選書、おでかけ図書館の対象学年拡大、おはなし会の他部署連携、読書活動推進事業の拡充	*学校と協力し「おでかけ図書館」を市内10校で実施することで、図書館の役割について説明を行うとともに、施設の見学や「としよカード」により本を借りる体験を提供した。 *図書カードを登録することにより図書館利用を高めることが出来た。 *市内外の図書館相互利用により図書館の利用促進を行った。 *小学生高学年による図書館員の体験やお化けのおはなし会など、利用者参加型の催しを工夫した。
	評価	図書館行事の充実に努め、成果指標も上昇しているので、評価を「B」とします。	
今後の課題 Action	取組	課題や改善点	
	①	図書館の利用について、市民に情報提供を行っていく。	
	③	*リクエスト等市民が希望する本について、購入又は他館との相互貸借により貸出を行う。 *学校や他部署と連携を図り、子どもに読書の輪を広げたり、市民の自己学習を支援したりする活動を展開していく。 *読書活動推進事業においては、市民が参加したいと思う催しを行う。	

【点検と評価】

基本方針5	人権教育・啓発の推進による、共生社会と人権文化の創造
基本的方向(1)	豊かな人権感覚を培う人権教育・啓発

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	B				

所管課	人権教育課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	実施する講演会のに参加して人権問題に関する関心や理解が深まった人の割合	目標値	%	45	46				50
		実績値	%		39.2				
	アンケート回答者の大変深まった人の割合 目標値の120%以上：評価「A」、目標値の80%～119：評価「B」、目標値の80%未満：評価「C」、目標値の60%未満：評価「D」 (54%以上) (36%～53%) (27%～35%) (26%未満)								
取組内容 Do	①人権教育・啓発の推進								
	1 市民が日常生活の中で、人権を尊重することを自然に考え、行動できる感覚を身につけられるよう、学校・家庭・職場・地域における人権学習が充実したものとなるように支援した。 1 特定職業従事者(市職員、教職員、保育職員、医療・保険関係者、福祉関係者)を対象とした研修を充実した。 0 3歳から5歳の幼児に人権尊重の感性を育むための幼児期人権教育事業、小中学生向けの人権講演会を行った。								
	②人権尊重の視点に立った行政の推進								
	1 人権施策推進連絡会議を開催し総合的な推進を図った。								
	③人権教育の学習資料の提供								
	1 効果的な人権学習会がおこなわれるように、人権教育に関する情報を収集し、学習教材として提供した。 4								
	④人権教育指導者の充実								
	1 市民が主体となった自主的な学習を行う一助とするため、人権教育指導者の講師登録を進めた。								
⑤各種団体が取り組む人権学習への支援									
1 各種団体が行う人権学習会への情報提供や講師派遣を行い学習の充実を図った。 3									
⑥相談支援体制の充実									
1 インターネットを悪用した人権侵害の相談のほか、さまざまな人権問題に対する相談や支援の充実を図った。 3									
関連事業	① 人権啓発講演会、人権を考える市民のつどい、人権教育スキルアップ講座、地域に学ぶ体験学習支援事業、人権の花運動、各種啓発展示、テレビ企画番組の放送、インターネットモニタリング、小中学校人権教育講演会、幼児期における人権教育の推進			③ 情報誌「夢きらめいて」の発行、人権啓発ビデオ「こころの窓」の制作、同和問題啓発資料「ふるさと」の活用、人権啓発ビデオライブ来の構築					
				④ 講師登録制度の充実に向けた取組					
	② 人権施策推進連絡会議			⑤ 市民人権講座の開講、市人権・教育研究協議会事業、市企業人権教育協議会事業					
			⑥ 人権擁護委員活動、インターネット人権トラブル相談事業、広域隣保館活動事業						

成果と評価		取組	継続課題	成果
Check	①	若年層(40歳代以下)の参加増への工夫		人権啓発講演会では、PTAの後援承諾を得て485名の参加者があり、そのうちアンケートを回答した40代以下は10.9%(29名、アンケート総数267名)で昨年度の8.9%(15名、アンケート総数167名)から微増することが出来た。また、幼児期人権学習事業は、保育園・幼稚園の先生向けの指導者養成セミナーを1回、親子で体験する親子セミナーを3回実施し、参加者からは「絶対人権感覚を培うためには、子どもの自己肯定感を育むことであり、親としてありのままの姿を受け入れて認めることが必要と感じました。」との事業を評価する感想が寄せられた。
	②	なし		部長を中心とする人権施策推進連絡会議を開催し総合的かつ計画的な推進を図った。また、第2次実施計画では目標値を設定し、評価・点検できる内容とした。
	③	教材の有効活用		平成27年度に作成した人権啓発ビデオ「多文化共生が実現した社会の将来像」を社会教育推進委員会で試写し活用を促した。その結果、1地区が地区学習に使用し、外国人が困っていることが理解出来た。
	④	なし		住民学習説明会を3回実施し、学習を計画的に取り組めるように指導するとともに、内容を地域のふれあい活動から人権学習重視への移行を依頼した。その結果、98地区中95地区で住民学習が実施出来た。
	⑤	住民学習参加者の減少対策と内容の充実		老人会、婦人会、民生児童委員会、消防団などに講師紹介・講師派遣を行った。また、地区が行う人権学習会へも講師派遣を行った。その結果、DVD視聴以外の学習方法が19地区で実施され内容の充実が図られた。
	⑥	相談の充実		新規事業としてインターネットのトラブル相談会を実施し、1名の相談があった。
		評価		
今後の課題		取組	課題や改善点	
Action	①		幼児期人権教育事業は、市内の保育園等への出張セミナーを行うなど積極的な展開に努めます。	
	②		人権施策推進連絡会議を開催し進行管理に努めます。	
	③		ビデオや資料が積極的に活用されるシステムづくりを検討します。	
	④		地域リーダーを養成するシステムづくりを検討します。	
	⑤		充実した人権学習となるように講師紹介等を行います。	
	⑥		ホームページに相談窓口を設置し相談の機会を充実します。	

【点検と評価】

基本方針5	人権教育・啓発の推進による、共生社会と人権文化の創造
基本的方向(2)	男女共同参画社会の実現のための意識・機会・環境・地域づくり

年度評価	H28	H29	H30	H31	H32
	A				

所管課	人権教育課								
目標設定 Plan	成果指標		単位	H27基準値	H28	H29	H30	H31	H32
	実施する講演会の内容に満足している参加者の割合	目標値	%	50	51				55
		実績値	%		78.3				
アンケート回答者の大変満足した人の割合 目標値の120%以上:評価「A」、目標値の80%~119%:評価「B」、目標値の80%未満:評価「C」、目標値の60%未満:評価「D」 (60%以上) (40%~59%以上) (30%~39%) (30%未満)									
取組内容 Do	①人権尊重と男女共同参画の意識づくり								
	1 広報誌、インターネットなどのメディアを有効活用し、男女共同参画社会に実現のための広報、啓発活動の実施と、セクシャルハラスメント、ストーカー行為などの 2 女性に対する暴力防止に向けた啓発や研修会を充実させた。								
	②あらゆる分野へ参画できる機会づくり								
	1 女性の人材育成に努め、女性が意欲を持って活躍できる機会の充実を図り、女性の活躍や団体の支援を行った。 2 また、女性の政策・方針決定過程への参画を進めるため、審議会、委員会への女性登用を進めた。								
	③男女がともに豊かに働ける環境づくり								
1 男女雇用機会均等法の周知や、固定的な性別役割分担意識を解消するための啓発を行うとともに、仕事と家庭生活、地域活動などが両立できるように多様な働き方が選択できる環境づくりを進めた。 2									
④だれもが安心して暮らせる地域づくり									
1 子育てや介護・看護などの女性の側の負担となっている事柄を家族や地域で支える仕組みづくりを進めた。									
関連事業 ① 男女共同参画セミナー									
成果と評価 Check	取組	継続課題	成果						
	①	男女共同参画を浸透させる効果的な講演会やセミナーの開催	男女共同参画の意識づくりにおいては、10回の研修会を行い、参加者の満足度(大変満足)が78.3%となった。						
	②	女性の登用について各種団体への働きかけ	女性委員の比率が29.5%となり、前年度より9%の増加となった。						
	③	仕事、家庭生活、地域活動をバランスよく選択、実現できる学習機会	ワークライフバランスについて学ぶセミナーを商工会青年部と共催して開催し、働き方を考える機会となった。また、再就職や起業を考える女性のためのセミナーを開催し、活躍をめざす女性の支援を行った。						
	④	子どもや高齢者、障がい者が安心して暮らせる環境の整備・充実	セミナーを通して、女性が自分の時間を大切にすることの大切さを広めることが出来た。						

	評価	セミナー参加者の満足度が78.3%と目標値を超えたので評価を「A」とします。
今後の課題	取組	課題や改善点
	①	男女共同参画の意識づくりにおいては、継続してセミナーを開催するとともに、地区学習などへの学習資料の提供などを行い、更なる意識の向上に努めます。
	②	女性委員の比率が30%以上になるよう、委員選考の際に女性の登用促進を進めます。
	③	新たな分野やさらなる活躍をめざす女性の支援を行うため、再就職や起業を考える女性を支援するためのセミナーを開催します。
	④	関係機関との連携により、性別等に関係なく地域で支え合って暮らすことの大切さを考える機会を提供します。
Action		

評価委員所見

評価委員 荒木 勉

所 見(特にコメントすべきことがあれば)	
幼稚園・学校教育	「第2期加東市教育振興基本計画」に見れば、今年度実施の「点検と評価」は、その継続と積極的な活用によって、確かな成果に資することを期待できる。
社会教育	社会教育の充実に向けて、多様な事業の実施は十分に評価される。その一方で、市民のニーズに対してどのように応えるかの判断基準は難しいだけに、市民による積極的運営を促すような事業展開のさらなる推進を期待したい。
教育行政	今回実施の評価では、マネジメントに関わっている「点検と評価」自体にも評価対象を広げ、「第2期加東市教育振興基本計画」の具現に向けた年次目標・計画を重視している。これとみると、「点検と評価」のシステムの中核を成す、PDCAサイクル構築が完成の域に達しているように感じられる。

総 評
今回実施の評価では、「第2期加東市教育振興基本計画」につながる年次目標に評価基準を置くなど、「点検と評価」自体が明確に評価対象に加えられている。この意義は大きく、各種事業個々の実施実態とマネジメント的立場からの進捗状況の両方を把握すること、例之は“選択と集中”への確かな資料提供にもなる。このように、「次期中期計画」作成に備えて、実効ある「点検と評価」として機能することを期待できる。

評価委員所見

評価委員 堀井洋一

所 見(特にコメントすべきことがあれば)	
幼稚園・ 学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎基本を重視しながら、新しい教育課題にも意欲的に取り組んでいる。また、その教育効果の向上も著しい。 今後小中一貫校の設置が推進される中、こども園と小学校、小学校と中学校との連携に係る先導的取組の充実が望まれる。
社会教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設の適正配置等課題がある中、創意工夫した運営や事業が展開されている。今後、社会教育委員会をはじめ、各種審議会等の意見を活用しながら、「学習成果の社会還元(言って回る 発表する 教える 役立つ)」を活かし、より一層の「生涯学習ボランティアの育成」や「自治能力を備えた市民の育成」が望まれる。 ○ 人権啓発の取組は、必要課題という学習ニーズの困難さがある中、創意工夫し地道に推進し、効果を上げていることは尊敬に値する。
教育行政	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育条件整備については、年々着実に進められ充実してきている。今後小中一貫校の着実な推進は、条件整備の効率化に寄与すると共に加東市の特色あるまちづくりにも大きく貢献することは確かである。 ○ 合併10年が過ぎ、年々数多くの現実的な課題に対応すると共に、小中一貫校の設置の推進が具体的に動いてきたことは大きな進歩である。これを核として、「知恵だし 汗だし」しながら教育委員会の組織を挙げての各課の事業推進がより期待される。

総 評
<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業点検・評価の変更について、目標達成や目標設定が具体的にになり事業効果も解りやすくなった。 ○ 委員として6年になる。年々充実・発展してきており、一市民として大変嬉しく思うと共に職員の皆さんの努力に感謝である。 ○ 事業効果を上げている割に市民に十分伝わっていない。教育委員会全体(特に学校・社会教育現場)として、さらなるマスコミ等への情報を発信することが望まれる。